

# 想 続

## 日々是想続

一般社団法人日本想続協会

代表理事・税理士 内田麻由子

先日、千葉の鹿野山禅青少年研修所にて2泊3日の大接心に初参加しました。臨済宗・妙心寺派管長の河野太通老師が「無門関」の提唱（講義）をしてくださいました。法句経に「よく整えし己こそまこと得がたきよるべなり」とあるように、坐禅によって自分の心を静かに整えること、お金や物ではなく心を豊かにしていくことが、幸福への道であると教えていただきました。

☆ ~ ☆ ~ ☆

さて、今月は「相続とは何か」について考えてみましょう。インターネットで「相続とは」と検索すると、ほとんどの方が「相続とは亡くなった人の財産を相続人が承継すること」と解説しています。しかし果たしてそれだけでよいのでしょうか。

いつも想続塾でお伝えしておりますとおり、相続には「財産の相続」と「心の相続（想続）」があります。「目に見えるもの」の相続と「目に見えないもの」の相続があるのです。

「相続＝財産の相続」だけと考えると、俺（私）が死んだあとに、子供たちで財産をどう分けるか、相続税をどう払うかということですので、ご本人にはあまり関心がないのですね。良きに計らえ、といった気持ちなのではないでしょうか。また相続人にとっては、親の財産を子が相続するのは当然だ、他の兄弟よりも財産をいかに多くもらうか、ということばかりに心が向いてしまうのです。いくら法的に有効な遺言書があっても、争うご家庭はたくさんあります。

☆ ~ ☆ ~ ☆

一方、「相続＝心の相続（想続）」と捉えてみるとどうでしょうか。死んだあとの話ではなく、「いま・ここ」、お子さんやお孫さんと一緒に過ごす一日一日、ひとときひとときが、まさに相続なのです。例えば、母から娘へおふくろの味を伝えるのも相続です。父から息子へ社会人とし

での心得を教えるのも相続です。おじいちゃんが近所の人へ毎朝明るく元気にあいさつしている姿を見て、孫娘がおじいちゃんからあいさつの大切さを学ぶのも相続なのです。

そう考えてみると、みなさんもきっと、生きていうちに、元氣なうちに、お子さんやお孫さんに伝えておきたい大切なことがあるのではないのでしょうか。また子どもの立場からは、親が元氣なうちに、聞いておきたいことがあるのではないのでしょうか。年に数回しか会えない親と一緒に過ごせる時間は、あとどのくらい残されているのでしょうか。相続税の申告をご依頼くださるお客様のなかには、「親ともっと話をしておけばよかった。親のことをほとんど知らなかった」とおっしゃる方が多いのです。

☆ ～ ☆ ～ ☆

相続とは、元々は仏教用語で「相（すがた）を続けること」です。親が精進する相（すがた）を、子が受け継いでゆくこと。これが本来の相続なのです。朝から晩まで働いて家族を養ってくれた父親。自分のことは後回しでいつも家族のことを第一に考えてくれた母親。孫の誕生を心から喜んでくれた父母。そのすがたを見て、自分もまた子どもたちのお手本となるような生き方をしていこうと努力していくことが、ほんとうの相続ではないのでしょうか。

「正念相続」とは、ご先祖様から脈々と受け継がれてきた正しい念（おも）いを相続することです。これよりも大事な相続があるのでしょうか。「人には親切にきなさい」「いつも笑顔でいなさい」など、みなさんの親や祖父母がいつも口癖のようにおっしゃっていたことを、大切に心に留めていただきたいのです。以前、相続塾のテーマにも取り上げましたが、ご家族みんなで「わが家の家訓」をつくるのもいいですね。

☆ ～ ☆ ～ ☆

禅語に「日々是好日」という言葉があります。毎日毎日がすばらしい日である。「今日は良い日、今日は悪い日などというが、それは比べるからである。今日一日というものは、過ぎ去ったら、またと来ない。」（河野太通「床の間の禅語」禅文化研究所）

相続には「財産の相続」と「心の相続（想続）」があります。どうかみなさん、お子さんやお孫さんへ心を相続（想続）してください。父母や祖父母から心を相続（想続）してください。一緒に過ごすかけがえのない時間をどうぞ大切にしてください。

心の想続は「いま・ここ」、毎日毎日が想続、「日々是想続」です。